

“安心安全な社会の実現を地域で支える” 保護司活動に込める想い

山村 良朋 (やまむら よしとも) 氏

平成24年に国立分区の保護司を委嘱されて以来、犯罪者の更生・犯罪の予防・青少年健全育成及びこれらの啓発活動に尽力し、地域社会の浄化や地域福祉の増進に貢献されています。安心安全な社会の実現のために、相手に寄り添い、心のケアを重視しながら更生へ導けるよう、会社員と両立しながら日々活動をしています。

保護司について教えてください

安全安心な社会の実現のために大切なことの一つに、過ちを犯した人の再犯や再非行をできる限り少なくすることがあります。保護司は、犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことがないように、その立ち直りを地域で支える民間のボランティアです。

保護司にしていきたいきっかけを教えてください

勤務している会社の経営者が保護司活動をしており、私の祖父も保護司だったこと等、私の人となりを見極めた上で推薦していただき保護司になりました。平日昼間の保護司活動が難しい会社員である私にとって、私用の時間休等を認めてもらえる環境は得難く、感謝しながら責務を果たしています。また、多くの活動を調整いただき、国立分区の配慮・配慮に敬服しております。

活動している中で意識している事を教えてください

当初は自分の経験にない事案に戸惑い、先輩保護司へ相談し教えを請うこともありましたが、今はできる限り相手に寄り添う気持ちと、偏見に目を曇らされないことを心がけています。お金がなくなると同時に手っ取り早く犯罪に走っ

てしまう人には、一緒に仕事を見つけ、住まいを見つけ、貯金をする手助けをし、同時に短慮を諫める心のケアができるよう努力しています。活動を通して印象に残っている事を教えてください

保護観察期間中に断りなく引越してしまつた一般遵守事項違反の少年。普通は違う地域に移ると担当保護司も変わります。しかし私は最後まで彼の面倒を見ようと思い、主任官に相談の上、毎回遠くへ往訪しました。

その思いが通じたのか、彼は起こした事件を悔やみ、努力の結果公務員試験に受かり、今では地元で人々のために活躍しています。彼の最終面接時の笑顔が今も心に残っています。

履歴書に空白期間があることで、なかなか就業できない対象者が多い中、向学心も転職の武器となることに気づかせてくれた出来事でした。

今後の保護司について教えてください

報道などで御存知の通り、保護司の担い手は年々減少しています。時間的な制約等からボランティア活動には不向きと言わざるを得ない年齢層や職業の方々が力を貸してくれることは、保護司の充足率を高めるために非常に心強い一助となります。

会社員の一人である私も、保護司の役割が周知されて活動しやすくなることや、社会全体が犯罪や非行そして再犯と向き合い、排除するばかりでなく包み込むような対応ができる、成熟した社会へ変革していくことへのお手伝いを望んでいます。

最後に一言お願いします

毎年7月の“社会を明るくする運動”、強調月間などの機会を通じて、講演会、住民集会、学校との連携事業などの犯罪予防活動を促進していきます。国立駅前で刑務所作業製品販売なども行いますので、見かけたらぜひ足を止めてご覧になってください。よろしくお願いいたします。

市民表彰式典ご欠席に伴い、後日市役所にて授与式を執り行いました

